



参 考 資 料

35

「朝日町りんご産地振興計画」策定経過

日 程	協 議 事 項 等
令和元年9月17日	県農林水産部長との会談
令和元年9月18日	JA、各生産組合長会談
令和元年10月2日	第1回朝日町りんご産地振興計画策定委員会・専門部会 ①委員会・ワーキンググループの目的・位置付けについて ②生産者実態アンケート結果について りんご農家の今後（推計について） ③専門部会の開催 ○生産基盤強化グループ 省力化栽培（ロンバス）、新たな機械の導入について 他 ○経営人材・労働力確保グループ 労働力確保の現状、新規就農者、園地継承について 他 ○産地ブランド力向上グループ 剪定技術、GI取得、情報発信、品質の向上について 他
令和2年1月8日	第2回朝日町りんご産地振興計画策定委員会・専門部会 ①第1回 ワーキンググループ（部会）での意見について ②計画の骨子案について ③将来（2029年以降）経営モデルについて ④経営体データの収集、蓄積、管理について ⑤専門部会の開催 ○生産基盤強化グループ スマート農業について 他 ○経営人材・労働力確保グループ 移住就農受入れ体制の構築について 他 ○産地ブランド力向上グループ りんごブランドの推進について 他
令和2年2月19日	第3回朝日町りんご産地振興計画策定委員会 ①第1回 ワーキンググループ（部会）での意見について ②計画（案）について ③専門部会の開催 ○計画実現に向けての意見交換

朝日町りんご産地振興計画策定委員会名簿

		所 属	職 名	氏 名	備考
1	委 員	朝日町りんご生産対策協議会	会長	菅 井 聡	
2	委 員	朝日町りんご生産対策協議会	副会長	阿 部 隆 浩	
3	委 員	朝日町りんご生産対策協議会	副会長	チェ ジョンパル	
4	委 員	さがえ西村山りんご部会朝日センター支部 朝日町果樹組合連絡会議	支部長 会長	鈴 木 秀 浩	副委員長
5	委 員	さがえ西村山りんご部会朝日センター支部	副支部長	柴 田 栄三郎	
6	委 員	さがえ西村山りんご部会朝日センター支部	副支部長	長 岡 秀 昭	
7	委 員	和合果樹組合	組合長	佐 藤 透	
8	委 員	和合果樹組合	副組合長	菅 井 恒 好	
9	委 員	古楨果樹組合	組合長	清 野 文 一	
10	委 員	古楨果樹組合	副組合長	渡 辺 正 博	
11	委 員	大谷果樹組合	組合長	志 藤 清市郎	
12	委 員	大谷果樹組合	副組合長	鈴 木 昇	
13	委 員	粧坂果樹組合	組合長	堀 敏 男	
14	委 員	粧坂果樹組合	副組合長	村 山 茂 雄	
15	委 員	朝日町若手農業者の会	会長	遠 藤 直 裕	
16	委 員	朝日町若手農業者の会	副会長	白 田 憲 彦	
17	委 員	さがえ西村山農業協同組合	園芸課長	渡 部 恵 嗣	
18	委 員	山形大学農学部	教授	小 沢 互	委員長
19	委 員	有識者		細 野 武 司	
20	助言者	山形県農林水産部 園芸農業推進課	果樹振興専門員	伊 藤 祐 幸	
21	助言者	山形県農林水産部 農業経営・担い手支援課	課長補佐	堀 雅 彦	
22	助言者	山形県村山総合支庁 産業経済部 西村山農業技術普及課	課長補佐	山 本 均	
23	事務局	さがえ西村山農業協同組合	朝日営農生活 センター長	齊 藤 敏 則	
24	事務局	朝日町農林振興課	課長	佐 藤 修	
25	事務局	朝日町農林振興課	主査	海 野 淳	
26	事務局	朝日町農林振興課	主事	菅 井 俊 樹	
27	事務局	朝日町農林振興課	主事	菅 井 元 基	
28	事務局	フィデア情報総研	主事研究員	松 本 敦 士	

朝日町りんご産地振興計画策定ワーキンググループ（部会）

【生産基盤強化グループ】

		所 属	職 名	氏 名	備考
1	委 員	朝日町りんご生産対策協議会	副会長	阿 部 隆 浩	
2	委 員	さがえ西村山りんご部会朝日センター支部 朝日町果樹組合連絡会議	支部長 会長	鈴 木 秀 浩	
3	委 員	和合果樹組合	組合長	佐 藤 透	部会長
4	委 員	古楨果樹組合	副組合長	渡 辺 正 博	
5	委 員	粧坂果樹組合	組合長	堀 敏 男	
6	委 員	朝日町若手農業者の会	会長	遠 藤 直 裕	
7	助言者	山形県農林水産部 園芸農業推進課	果樹振興専門員	伊 藤 祐 幸	
8	事務局	朝日町農林振興課	課長	佐 藤 修	
9	事務局	フィデア情報総研	主事研究員	松 本 敦 士	

【経営人材・労働力確保グループ】

		所 属	職 名	氏 名	備考
1	委 員	朝日町りんご生産対策協議会	会長	菅 井 聡	
2	委 員	さがえ西村山りんご部会朝日センター支部	副支部長	柴 田 栄三郎	
3	委 員	和合果樹組合	副組合長	菅 井 恒 好	
4	委 員	古楨果樹組合	組合長	清 野 文 一	部会長
5	委 員	大谷果樹組合	副組合長	鈴 木 昇	
6	委 員	さがえ西村山農業協同組合	園芸課長	渡 部 恵 嗣	
7	委 員	山形大学農学部	教授	小 沢 互	
8	助言者	山形県農林水産部 農業経営・担い手支援課	課長補佐	堀 雅 彦	
9	事務局	朝日町農林振興課	主査	海 野 淳	

【産地ブランド力向上グループ】

		所 属	職 名	氏 名	備考
1	委 員	朝日町りんご生産対策協議会	副会長	チェ ジョンパル	
2	委 員	さがえ西村山りんご部会朝日センター支部	副支部長	長 岡 秀 昭	
3	委 員	大谷果樹組合	組合長	志 藤 清市郎	部会長
4	委 員	粧坂果樹組合	副組合長	村 山 茂 雄	
5	委 員	朝日町若手農業者の会	副会長	白 田 憲 彦	
6	委 員	有識者		細 野 武 司	
7	助言者	山形県村山総合支庁 産業経済部 西村山農業技術普及課	課長補佐	山 本 均	
8	事務局	さがえ西村山農業協同組合	朝日営農生活センター長	齊 藤 敏 則	
9	事務局	朝日町農林振興課	主事	菅 井 俊 樹	
10	事務局	朝日町農林振興課	主事	菅 井 元 基	



朝日町ロンバス栽培剪定講習会



りんご剪定講習会（朝日町主催）



早期成園化のためのりんご剪定講習会（山形県主催）

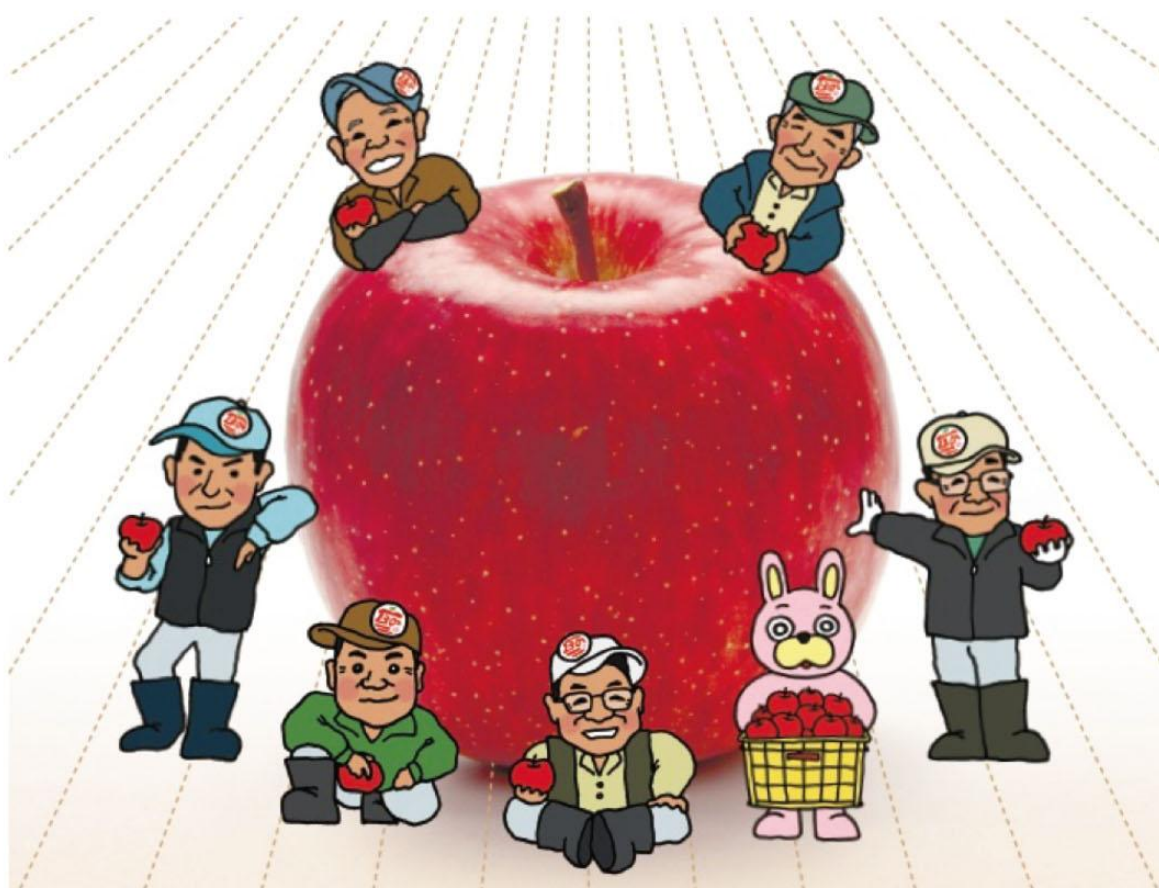
朝日町りんごの歴史

西暦	年号	事 項
1887年	明治20年	和合釜山地内に鈴木庄太郎氏、菅井喜兵衛氏の2名より、りんごの植栽が行われる。品種は倭錦と紅玉。放任栽培のため一時消滅。
1907年	明治40年	山形市中野の豪農、武田甚内氏により、同地内に紅玉と倭錦75aずつ植栽。黒点病の発生が多く、「和合の星りんご」と呼ばれた。
1924年	大正14年	菅井勝治郎氏が、武田氏より園地を借受け、本格的にりんごづくりに入る。昭和2年に県農場試験場山北先生より、整枝、病虫害防除の指導をうけ栽培に成功する。
1929年	昭和4年	町農会技術員佐藤兵左衛門氏のりんご栽培奨励により、和合のほかには粧坂、中沢、新宿、古楨の桑園がりんご園に転換が進んだ。
1946年	昭和21年	終戦後の農地改革により、りんご園の造成拡大。戦後におけるりんごの好景気は数年続き「りんごを500箱作れば倉が建つ」と言われた。
1947年	昭和22年	農協法が制定される。
1948年	昭和23年	和合平開拓農業協同組合が組織され、組合員15名が和合平地区に入植。送橋果樹組合設立。
1949年	昭和24年	栽培技術も確立し生産量も多くなり、市場開拓を迫られ東京市場に初出荷。当時の等級は「松、竹、梅」。
1950年	昭和25年	宮宿果樹組合、和合果樹組合が設立。当時の主な品種は、祝、旭、紅玉、スターキング、ゴールデン、国光、印度で主要七品種と呼ばれた。中でも紅玉が人気であった。
1951年	昭和26年	大谷果樹組合設立。
1953年	昭和28年	動力噴霧機が導入され、作業の機械化が進む。
1954年	昭和29年	神田市場へ出荷し好評を得る。
1955年	昭和30年	和合を中心に広まったりんごは宮宿地区から大谷地区、西五百川地区と町内全域に広がる。粧坂果樹組合設立。
1959年	昭和34年	和合果樹組合とは別に、農協和合果樹組合が設立。農協によるりんごの取り扱いが始められ、共販体制の第一歩となる。東北七号（ふじ）東北3号（あかね）を導入。30年代半ばは、スターキングが人気であった。特に和合産は「蜜入りスター」として好評だったが、最初は腐ったものとして返品されたことがあった。伊勢湾台風。
1961年	昭和36年	宮宿農協共同選果場、大谷農協共同選果場設立。スピードスプレーヤー導入。
1962年	昭和37年	佐藤鎌治氏が、青森よりふじを導入。
1963年	昭和38年	宮宿果樹組合と農協の和合果樹組合が共選、共販の一本化に成功し、宮宿共選りんごとして取り扱われる。この頃からふじの食味、貯蔵性が注目をあび、生産者の人気が高まる。
1964年	昭和39年	選果機は形状式から、重量式に移行。
1965年	昭和40年	木箱詰め包装から、段ボールパック詰めになる。無袋ふじ、市場に初出荷。

西暦	年号	事 項
1965年	昭和41年	西五百川農協共同選果場設立。
1968年	昭和43年	以南地区青果物協議会、天狗マーク統一。
1969年	昭和44年	低温貯蔵庫及び選果場の設備をもつ、県経済連果実流通センターを設置。
1971年	昭和46年	無袋ふじ研究会が発足される。ふじへの品種更新が大規模に実施。
1972年	昭和47年	無袋栽培技術が確立し、生産者の多くは無袋ふじ栽培にきりかえる。
1974年	昭和49年	第二次構造改善事業で造成が進み、りんご産業の規模拡大を図る。その後57年までりんご園造成が続く。わい化栽培始まる。
1975年	昭和50年	町内三農協が合併し、朝日町農業協同組合を発足。同時に宮宿果樹組合と農協和合果樹組合が合併し、朝日町農協センターりんご組合と改める。大冷害、降電被害。
1976年	昭和51年	りんごの栽培面積も増大し、出荷量も増えたことから、新たに選果場を設置。
1978年	昭和53年	朝日町農協センターりんご組合が、朝日農業賞受賞。
1979年	昭和54年	朝日町農協センターりんご組合が、山新三P賞繁栄賞受賞。
1980年	昭和55年	出荷量3,820tに達し、量、単価ともに無袋ふじトップ産地としての地位を確立。朝日町わい化研究会発足。大冷害。
1983年	昭和58年	農協支所単位の組合をまとめ、山形朝日農協りんご組合を再発足する。黒星病が初めて発生する。降電被害。
1986年	昭和61年	新農業構造改善事業で、選果場の一部を増改築。
1987年	昭和62年	町のりんご総生産量が12,000tに上り、全国の1%を突破する。千秋、北斗などへの品種更新を開始。降雪による冷害。
1988年	昭和63年	朝日町りんご植栽101年記念事業開催。
1989年	平成元年	りんご植栽101年記念式典開催。日本一りんごの町を宣言。
1990年	平成2年	りんご販売額が33億円を突破する。
1994年	平成6年	農協の広域合併により、さがえ西村山農業協同組合を発足。
1995年	平成7年	先進的農業生産総合推進対策事業、農業生産体制強化総合推進対策事業によって施設を増設し、光センサー選果機を導入。
1997年	平成9年	りんご生産価格が早生から晩生種まで大暴落する。ふじは出荷すれば赤字になるため、山や川に捨てた農家もあった。
1998年	平成10年	昂林の初共選、10キロ高値で15,000円となる。りんご銘柄産地確立事業として、3ヵ年事業で着色系つがると昂林の高接一挙更新を推進。
1999年	平成11年	全国りんご研究大会が山形県で開催される。朝日町宮宿の今井賢一園地が視察園地となる。
2001年	平成13年	町統一共選によるあじびかの初共選。
2002年	平成14年	無登録農薬問題が山形県で発覚。県内の全りんご栽培農家に農薬残留分析を義務づける。「ふじ」が東京都中央卸売市場の11月平均価格が280円と平成に入ってから最安値を付ける。

朝日町りんごの歴史

西暦	年号	事 項
2003年	平成15年	「あじぴか」が商標登録の関連で「シナノスイート」と改名される。 「シナノスイート」の出荷量が5,700ケースを超える。
2004年	平成16年	りんご輸出台湾へ初出荷。 町政施行50周年にあわせ11月第3日曜日を「朝日町りんごの日」と制定する。
2006年	平成18年	山形県オリジナル品種「秋陽」初出荷。
2008年	平成20年	全国りんご研究大会が山形県で開催される。朝日町能中の志藤清市郎園地が視察園地となる。第10回全国果樹技術・経営コンクールにおいて朝日町果樹組合連絡会議が日本園芸農業協同組合連合会長賞を受賞。
2009年	平成21年	山形県オリジナル品種「ファーストレディ」初出荷。国の強い農業づくり交付金事業により、朝日選果場に最新鋭の光センサーを導入。
2011年	平成23年	高品質りんご生産緊急対策事業として、「新半わい化栽培」の普及を推進。
2014年	平成27年	りんご輸出過去最高数量・金額となる。数量72t。販売金額2,200万円。
2016年	平成29年	朝日町りんご植栽130周年となる。記念事業実施。
2018年	平成30年	朝日町を会場に「りんご新半わい化 朝日ロンバス栽培全国大会」が開催される。

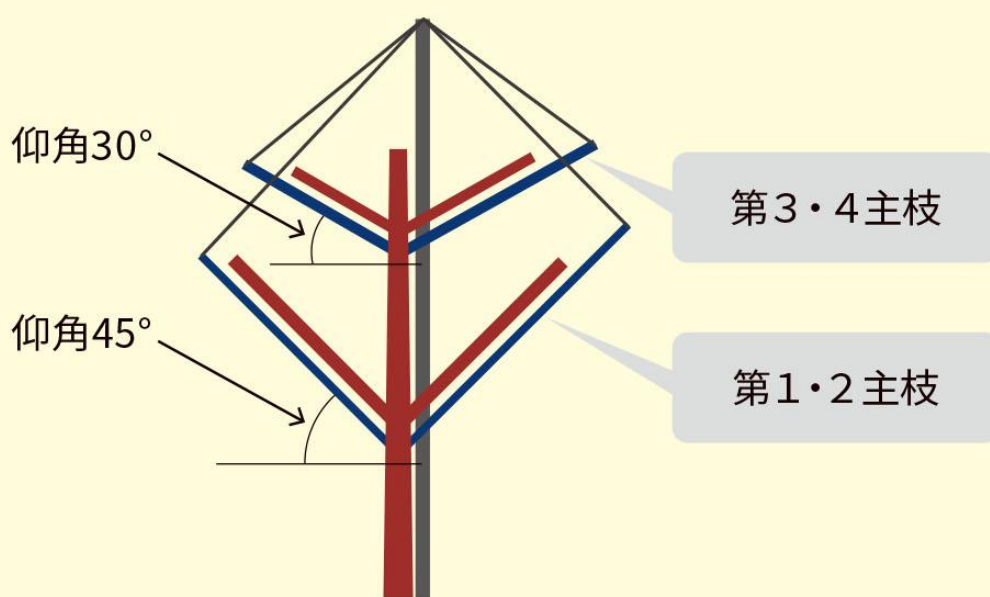


朝日ロンバス栽培について

平成22年に戸谷公次氏（長野県）を講師に招き「新半わい化栽培」が朝日町に紹介された。「新半わい化栽培」は、わい化度の弱いわい性台木や半わい性台木に、マルバ台利用樹の整枝技術を応用した「開心系半わい化樹」の仕立て方法に半密植を合わせた栽培方法である。「新半わい化栽培」は受光、作業性、薬剤の散布効率がよく省力化が期待される栽培方法である。

この栽培方法に対して、主支柱にV字に加工された鋼管パイプを上下に2段、上から見た場合に1段目と2段目が十字に交差するように設置し、鋼管パイプにエスター線を通し主支柱の頂点で吊り上げサポートしたのがロンバス栽培である（以下図）。2段設置した鋼管パイプに主枝を這わせることで雪害に強くなり、鋼管パイプに主枝を這わせることができるため主枝を決めやすくなるメリットがある。

雪の多い朝日町においても雪害の減少が期待でき、主枝が決めやすくなるため新規就農者や定年帰農者でも取り組みやすく、早期結実で収量増加が見込まれるため朝日町としても推進していきたい。



上下の主枝は水平方向90度で交差



朝日ロンバス栽培基本骨格



朝日ロンバス栽培園地

朝日町りんご産地振興計画

2020年(令和2年)3月

発行・編集 朝日町農林振興課

データ分析 株式会社フィデア情報総研

〒990-1442

山形県西村山郡朝日町大字宮宿 1115

T E L 0237-67-2111 (代表)

F A X 0237-67-2117

